

能装束デザインー縫箔ーにおける色彩の要素分析

筑紫女学園短大 岡本文子

【目的】 能装束は歴史的文化財であると同時に、日本の伝統的デザインの造形的遺産でもある。本研究では現代ビジュアルデザインの観点から、能装束デザインに用いられた色彩それぞれについての要素分析を通して、その配色の傾向を明らかにし、発想形式の特徴を把握することを目的としている。

【方法】 江戸期の能装束のうち、縫箔を対象とし、一領に使われている色彩の三属性（H S B）についての要素分析を行なった。能装束デザインに配色されたそれぞれの色彩についてのカラー情報は、コンピュータを用い、各要素について、Hは色相環の角度、S・Bは0～100の比によって示される数値である。また比較の指標としては、日本色研のトーン別色紙を同様に要素分析した。

【結論】 コンピュータによって要素分析したカラー情報により、配色された色相間の相関や偏り、色相と彩度・明るさとの関係などの、カラリングにおける表現形式上の手法の特質が得られた。とりどりの鮮やかな色彩に彩られたように見える能装束のデザインも、カラー情報を総合すると、対立色を主調とした限られた範囲の色相を基調としていることが認められる。また、彩度や明るさも重要な役割を負っており、それらの配色の手法は日本の伝統的感性を特徴づけるものである。それは、鮮烈な印象と格調という両極的な価値を融和させる手法でもあることが理解された。